

■第 4 回新宿区環境基本計画策定専門部会（平成 24 年 7 月 10 日）議事要旨

検討概要：区民・事業者アンケート結果速報、「新宿区第二次環境基本計画」の構成、リーディングプロジェクトについての意見交換

1 開会あいさつ

(1) 開会あいさつ

・勝田副部長よりあいさつ。

(2) 出欠席者の確認

・事務局より出欠席者の報告を行った。（今回の欠席者：野村部会長、崎田委員、瀧口委員の 3 名）
・東京電力の人事異動により後任となった高萩委員による自己紹介。

2 議題

(1) 区民・事業者アンケート結果の速報について

・資料 1-1、1-2 を用い、受託業者より説明。
・事務局より補足説明。

（質疑応答、意見交換）

- ・アンケートで大事なものは回収率である。区民の郵送分が少ないように思うが、回収率を増やすことはできないか。（部会員）
- ・郵送で回収率 30%なら良い方だと思う。あと、web 調査と合わせて 57%ということであるが、web と郵送では対象者の抽出方法が異なるので、単純に合算するとデータに信憑性がなくなるので、合わせない方が良い。（部会員）
⇒web と郵送で回答の傾向が同じであったために今回合わせたものを提示したが、計画書などへ記載する際には扱いを再度検討する。（事務局）
- ・区民アンケートの問 2 で、節電などの取り組みについての満足度は、回答者自らの取り組みに関する満足度なのか、区や地域など周辺地域での取り組みに対する満足度なのか、どちらを聞いたかったのか。（部会員）
⇒周辺地域での取り組みを想定していた。（事務局）
- ・いろいろな活動や取り組みを知らない人にどうやって知らせるか、または知っていた人がどうやって知ったかを把握できると、イベントや町会の活動などでの PR に活かせる。（部会員）
- ・事業者アンケートの問 5 の「4. 民間組織との連携」「6. 地域住民などとの連携」については、事業者として、どういったものを想定、期待して回答していると思うか。（部会員）
⇒新宿区で何か連携しようとした場合、大きいことから入るのは難しく、身近でできる活動を一緒に地道にやっていくことが重要であると実感している。事業者サイドから学校や地域に働きかけることはなかなか難しいが、逆に提案してもらえれば、積極的に参加することはできる。（部会員（事業者））
- ・ローカルなところでいくと、地域のお祭りに人を出すとかも、CSR の一環として地域活動への動機づけとなる。（部会員）
- ・川崎の CSR 推進プロジェクトにも関わっているが、中小企業の場合、地域と組んで何かをやっていこうという意向が強く、同じような傾向の表れではないかと思う。（部会員）

- ・アンケートについて、大学生アンケートの結果整理やクロス集計などのデータ加工はまだ残っているが、概ねご理解いただけたということで良いか。(副部会長)
⇒異議なし、了承。

(2) 「新宿区第二次環境基本計画」の構成について

- ・資料 2-1、2-2、2-3 を用い、受託業者より説明。
- ・事務局より補足説明。

(質疑応答、意見交換)

- ・「新宿力」とそれを活かした先進モデルというのが理念になってくると思うので、「新宿力」というものをもう少し前面に出して、区民に分かりやすく示した方が良い。(部会員)
⇒「新宿力」については、計画書の「はじめに」のところにも打ち出すなど、しっかり書きこんでいきたいと思う。(事務局)
- ・向こう 10 年を見据えた計画であるため、10 年のスパンで何かをやっていく、達成するという視点が大事になってくる。そういう意味では、24 ページにある「節電による創エネ」というくだけた表現は少し弱いと思う。この 10 年を考えると電気だけでなく、他のエネルギーも含めての創エネになってくる。(部会員)
⇒都心部においては、節電による効果が大きいため、このような表現にしていたが、他のエネルギーなども含めて全体的な表現になるように組み立てていきたい。(事務局)
- ・ビジュアル的なものももう少しあると良い。文章が長いと何が言いたいのが伝わりにくいので、パッと見でわかるものがドンとあると良いと思う。(部会員)
⇒見やすさについては今後検討していく。また、本文以外に概要版を出す予定であるが、概要版は、よりビジュアル化したものとしたい。(事務局)
- ・これまでの取り組みについては、時系列的な年表などがあると分かりやすい。(部会員)
⇒これまでの取り組みについては、一覧表や年表など分かりやすいもので提示することも考えていきたい。(事務局)
- ・町会の活動として、資源の集団回収をやっているが、活動のしやすさや業者との連携などにより、うまくいっている。省エネなどについても何かやっていきたいとは思っているが、町会活動としては手詰まり状態にある。(部会員)
- ・三重県の事例であるが、町会単位で登録し、期間限定でどれだけ削減できたかを昨年度と比較して、1 ポイント 1 円に換金できるようなポイント制の取り組みも行われているが、そういうものもマネしてもいいかもしれない。資源回収ではお金が還元されるから続いているという側面もあると思うので、省エネなどの活動にもそういった動きが加わると広がるかもしれない。(部会員)
⇒区でやっている「エコ自慢ポイント」について、節電にもポイントがつくようにした。要するに、どういった仕組みを考えていくかだと思う。(事務局)
- ・計画を進めていく上で大事なものは、第 6 章の推進体制だと思う。温暖化対策指針にも推進体制が書かれているが、これとうまくリンクできると良い。(部会員)
⇒この基本計画ではいろいろな分野が関わってくるが、温暖化対策指針の推進体制とも整合性を取りながら、推進体制については今後検討していきたいと思う。(事務局)
- ・5 ページの対象範囲の中に、「環境と経済」というのが項目立てられており、目新しい部分だと思われる。ただし、具体的に産官学連携や環境ビジネスなどを、どうやってこの計画に盛り込んで

いくつかをよく検討する必要がある、その結果によってはトーンダウンすることも考えられる。(部会員)

- ・今後 10 年を見据えた場合には、「環境と経済」という項目は重要なものになってくると思うので、打ち出したいところだが。(部会員)
- ・6 ページの主体の中で、区民と地域組織が同枠になっているが、若干異なると思う。区民についても区内在住者と区外から来る人では、期待するものが変わってくるので、もしかしたら、分ける必要があるかもしれない。(部会員)
⇒条例で定義している主体は、あくまでも区民、事業者、区の3つであるが、前計画の時には、区立学校限定ではあるが学校も区分して定義つけた。主体の定義付けについては、もう少し整理する必要があると思っている。(事務局)
- ・9 ページの社会的動向の中で、グリーン経済と低炭素都市づくりが同じ枠組みになっているが、どちらかという、低炭素は次ページの地球温暖化などと同枠か、エネルギー政策として別枠として整理する必要がある。(部会員)
- ・14 ページの「(6)公害問題・環境汚染、車社会のあり方」についても、悪臭や騒音といったデータがあると思うので、グラフや図表などを入れると良い。(部会員)
- ・15 ページのヒートアイランド対策は重要な事項であると思うが、区内の気温変化のグラフなどを入れると区民により伝わると思う。(部会員)
- ・20 ページの視点の2番目に掲げられている事項で、「災害時のリスク軽減」と「水とみどりの質的向上」がどうリンクするのかが良く分からない。災害時の避難場所としてのオープンスペースという意味では一理あるかもしれないが、ここで言いたいこととは少し違うと思う。(部会員)
⇒危機管理課とも調整しながら、今後整理していきたい。(事務局)
- ・20 ページに3つの視点がかかれていますが、この中でも3番目の「新宿力」が最も重要な視点であると思うので、1番はじめに持ってきた方が良いと思う。(部会員)
⇒「新宿力」というのをまず打ち出す形で整理していきたい。(事務局)
- ・21 ページの基本理念や目指すべき環境像については、区民・事業者アンケートから導き出されるキーワードなどを盛り込むと良いと思う。(部会員)
- ・施策の展開で、基本目標4のエネルギー政策に「節水(雨水利用)」が含まれているが、どちらかという、基本目標2の資源循環に分類される項目であると思う。(部会員)

(3) リーディングプロジェクトについて

- ・資料3を用い、受託業者より説明。
- ・事務局より補足説明
- ・スマートメーターの動向について、部会員(電力事業者)より補足説明

(質疑応答、意見交換)

- ・リーディングプロジェクトの進め方としては、10年である程度の成果を出すような方向で考えていくのか。(部会員)
⇒この10年で成果を出していくものと考えているが、どの段階で何をしていくかということは一度整理する必要があると考えている。(事務局)
- ・スマートメーターのプロジェクトについては、スマートコミュニティの形成など、もう少し範囲を拡げても良いと思う。(部会員)

- ・このプロジェクトについては、エネルギーの需要者サイドがどう取り組むかも重要で、事業者アンケートでも分かる通り、借りているテナントだから取り組みにくいといった状況をICTの力（例：NEC川崎事業所の「オフィス丸ごとエコ」という取り組み）を借りて出来るようにするといったことも含まれてくると思う。（部会員）
- ・マンションの修繕などの建物改修や設備更新に合わせて、ハード的な対策を行っていくことも考えられる。（部会員）
- ・「エコワングランプリ」の発展形で、事業者の低炭素に係わる取り組みについても、「低炭素新宿ブランド」といったようなものを認定するなど、応援、支援する仕組みができると良い。（部会員）
- ・リーディングプロジェクトについては、実行委員会などの専門の組織を別につくるのか、既に活動している団体などを統合するなどしてやっていくのか、コストの面も含めて、実際の働きかけはどうやるのか。（部会員）
⇒コスト的なものについては、今後、区の実行計画の中で位置づけて予算を確保していく形になる。人的なものは、関係各課と調整しながら、今後詰めていく。（事務局）
- ・今回はアイデア的なものを示したが、これ以外に何かアイデアがあれば、7/17（火）の午前中までにご提案いただければ、できるできないの判断も含めて、7/19（木）に開催される審議会の時に報告できると思う。（事務局）

(4) その他

- ・7/20（金）に行われる「POWER SAVUNG 2012 in 新宿」の紹介。

以上